

講義名	日本経済論			授業形態	
担当教員	亀井 大樹	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

### 主題と概要

今日我々は多くの難しい課題に直面しているといえます。例えば、資源問題、少子高齢化、人手不足、環境問題など例を挙げれば切りがありません。ではなぜこういった課題は発生したのでしょうか？難しい課題は昨日今日に持ち上がったわけではなく、実は過去からの積み重なった課題でもあるのです。そこで本講義は戦後の日本経済の歩みを振り返りながら、現在直面している課題を歴史に則して一掃に考えます。

### 到達目標

- 【第1段階】 意欲・態度に関する目標  
 目標1 今日我々はどのような課題に直面しているのか気づく。  
 目標2 直面している課題は過去からの蓄積の上にあるということを知る。  
 【第2段階】 知識に関する目標  
 目標3 高校日本史探究や歴史総合の教科書をつかいながら、戦後日本の歩みを説明できるようにする。  
 目標4 初級程度の日本経済論や日本経済史の大学テキストをつかいながら、戦後日本経済のそれぞれ時代特徴を説明できるようにする。  
 【第3段階】 表現に関する目標  
 目標5 この授業終了時には現代の課題に対して歴史を踏まえながら自分なりの考えをもつようになる。

### 提出課題

- ミニッツペーパー
- 毎回の授業後はその日の授業内容を簡単に振り返りと感想・質問・不明点を提出します。
- 詳細は授業中に説明します。
- 模擬試験
- 学期半ばで模擬試験を行います。いつやるかは事前にアナウンスします。
- 成績評価には反映しませんが、学期末試験へつながる重要なファクターとなってきます。
- 持ち込みは全て可で検討しています。

### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

- ミニッツペーパー
- 提出したミニッツペーパーにおける感想、質問、不明点は翌週の授業スライドで回答します。
- 模擬試験
- 模擬試験を行った場合は、翌週以降に講評をおこないます。

### 評価の基準

- 【平常点】 20%  
 ・授業への参加度（受講態度）およびミニッツペーパーでの質問や感想内容で評価します。  
 ・私道や他の受講生の迷惑になるような行為は厳に慎んでください。  
 ・授業中に私語がない場合、授業参加点として、全員に（10）を付与することがあります。  
 【模擬試験】 0%  
 ・学期半ばで模擬試験を行う可能性があります。いつやるかは事前にアナウンスします。  
 ・成績評価には反映しませんが、学期末試験へつながる重要なファクターとなってきます。  
 ・持ち込みは可で検討しています。  
 【定期試験】 80%  
 ・学期末定期試験を行います。  
 【ボーナスポイント】（最大15%）  
 ・加点課題を認定することがあります。  
 ・任意課題ですので、意欲のある人のみ提出することができます。  
 ・ただし成績評価は平常点、定期試験、加点課題を中心に総合的に勘案して行います。  
 ・成績評価の方法（加点課題等）は初回の授業で説明します。  
 ・ミニッツペーパーの回収はスマホ、タブレット、パソコンをいいます。スマホ、パソコンを持参してください。持っていないでも当日配布限定の紙のミニッツペーパーを配布します。  
 ・定期試験だけで成績評価はしません。

### 履修にあたっての注意・助言他

- 【受講のルール】  
 ・食事（ガムも含む）は厳禁です（水分補給のための飲み物は認めます）。  
 ・受講中のスマホの着信は厳禁です（ただし緊急等に際する場合は認めます）。  
 ・他の受講生に迷惑がかかるので、講義中の私語は厳禁です。  
 ・ミニッツペーパーで私語による苦情があれば、翌週から予告なしに座席指定を行うことがあります。  
 ・逆に授業中に私語がない場合、授業参加点として、全員に（10）を付与することがあります。  
 ・他の受講生に迷惑がかかるので、授業中に携帯電話やスマホの着信音やチャッパ音を鳴らさないようにしてください。  
 ・スライドをスマホで静止画撮影するのは認めますが、その場合、マナーカメラ等のアプリを使用してください。  
 ・動画撮影は認めません。  
 ・隣席のある生徒がいれば申し出てください。

### 教科書

.使用しない。

### 参考図書

戦後日本経済史	日本経済新聞社〔編〕	日本経済新聞出版	1320	978429611319
現代日本経済	橋本寿朗、長谷川信、宮島英昭、戸藤直	有斐閣アルマ	3080	978464122121

### その他

- 【配布資料】  
 ・配布資料は授業時に適宜配布するか、必要に応じてポータル等にアップします。  
 【参考文献】  
 ・授業時に指示しますが、高校歴史の教科書・資料集類をあげておきます。例えば以下のような文献です。  
 日本史探究  
 佐藤信ら編著（2023）『詳説日本史』山川出版社。ISBN 978-4-634-70121-2  
 歴史総合  
 久保文明、中村尚史ら編著（2022）『現代の歴史総合 みる・読みとく・考える』山川出版社。ISBN978-4-634-70112-0

### 授業計画

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：現代の日本経済とはいかなる時代なのか？
- 第3回：GDPによる占領政策～三大経済改革
- 第4回：戦後経済復興～朝鮮戦争による特需
- 第5回：高度経済成長のはじまり～インフラ整備進む
- 第6回：高度経済成長の弊害～公害と環境問題
- 第7回：中絶のまどめ
- 第8回：安定成長～クソショックとオイルショック
- 第9回：安定成長～レジャー産業の成立
- 第10回：バブル経済～その発生と崩壊
- 第11回：平成不況～就職氷河期
- 第12回：平成不況～IT革命
- 第13回：アベノミクスとコロナ時代～デジタル化と持続的発展
- 第14回：脱グローバル化～セッション～新東西対立
- 第15回：全体のまとめ  
 学期末定期試験

- ・なお授業テーマについては、学生の理解状況にあわせて、変更・割愛される場合があります。

### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

### 準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 【予習】2時間  
 ・高校の日本史や政治経済の教科書等で該当時代を復習しておく。  
 【復習】2時間  
 ・毎回のスライドで提示した到達目標を達成できるようになっておく。

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本講義を受講することで、「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力」のうち、「（2）知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」と「（3）創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材」に寄与することができるようになります。

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- 【ICT活用】  
 ミニッツペーパーの回収はスマホ、タブレット、パソコンをいいます。スマホ、タブレット、パソコンを持参してください。

### 実務経験の有無及び活用

なし。

### 備考

特にありません。